

武蔵野市第六期長期計画・第二次調整計画策定委員会
(策定委員と市民との意見交換会)

■日時 令和6年9月30日(月) 午後7時～午後9時3分

■場所 オンライン (Zoom)

出席委員：岡部委員長、中村副委員長、木下委員、久留委員、古賀委員、鈴木委員、
箕輪委員、吉田委員、伊藤委員、荻野委員

欠席委員：なし

事務局が、会の進行上の注意事項について説明した後、意見交換の趣旨、「テーマ別論点集」の構成について説明した。

続いて、委員長が挨拶し、策定委員会委員が自己紹介をした後、意見交換を行った。

【市民A】 学校施設の運営体制について。学校の働き方改革、出生率の低下に伴う児童の減少、小・中学校から私学に行く生徒の増加、外部的な影響等で部活の状況が変わっている。学校の部活は教育委員会の教育企画課だけで所管するのではなく、市民のスポーツ機能を複合的に組み込んでどうか。先進自治体として、学校と地域型のスポーツ施設などを組み込んだものや、高齢者のフレイル対応等、市民の健康も含めた複合的な機能を学校施設の中に取り込んでいけないか。

【副委員長】 学校だけ見るのではなく、公共施設の建物を機能の変化に合わせてどう整備していくのか。複合化は公共の専門家たちだけでは達成できない。建築、まちづくり、様々な専門家を巻き込み柔軟に考えていかなければならない。

武蔵野市は公民連携に関しては近時あまり進んでこなかったが、プレイスの成功のように、民間と協調しながら新しいものにチャレンジしていくことは非常にいいことだと思い、調整計画に書き込んだ。今は中学校の建て替えが注目されている。子ども・教育担当分野のB委員ともさらに議論して、位置づけを書き込んでいきたい。

【A委員】 私は積極的に複合利用する方向に賛成だが、これまでも、積極的に複合利用を始めても、学校で事件が起きるとすぐクローズしてしまうという社会的な波があった。

教育の場の安全と有効活用というせめぎ合いをどう解決するか、議論しなければいけない。

イーストエリアのコミュニティセンターの建て替えにも、中高生の場所と複合させようという考え方がある。独立した2つの施設を1棟にただけでは複合施設と言えない。今までのコミュニティセンターのあり方をそのまま踏襲するのではなく、建築にも知恵を絞り、柔軟に考えていかなければいけない。

【B委員】 学校施設の複合化については、平成27年、地域振興と学校施設を学びの場の拠点とするという文科省の報告書が出ている。機能の複合化や地域との連携も含めて、安全面だけでなく、機能を一緒にすることによる難しさ、良さについて、専門家の意見も聞き、様々な角度から検討できるといいと思っている。

【市民A】 武蔵野市らしい、20年、30年先を見越した先進的な取組みを考えていただきたい。

【委員長】 六長調策定のときに、学校ビオトープの地域への開放という意見が出され、私は当然やるべきだと思ったが、実際は学校の管理運営や安全上の問題があると聞いた。教育上支障のない範囲で地域の人たちが多層的、多角的に使えるようにということは論をまたない。

【市民B】 ビオトープは、やる気のある先生は積極的に取り組んでくださるが、その先生が異動になると、維持管理する人がいなくなり、朽ち果ててしまう。誰が維持管理し、教育のために、あるいは楽しむために活用するかという視点がないと、全体で議論してもだめなのではないか。

【委員長】 管理を学校だけでなく地域と協働して取り組めば、安全上も問題はないと思う。学校に全部任せるから、維持管理を続けられなくなる。

【市民B】 学校施設については、教職員、発言できるような立場の学生、小学生、PTA、その道に詳しい人たちの意見も聞く必要がある。

コミセンと学校区という昔からあるテーマも、今後再配置を考えるうえで考慮に入れてほしい。

【委員長】 中高生との意見交換会では、中高生にとってコミセンは自習などにはいいが、大きな音や声を出すことがはばかられ、交流には使い勝手が悪い、プレイスのB2階のようなところを武蔵野市でもっとつくってくれたらうれしいし、武蔵野市の価値が高まると、

中高生たちは口をそろえて言っていた。

【市民B】 プレイスは居場所をうまくつくった。コミセンの方針によって、敷居の高いところ、大規模館を運営していだけのところもあれば、まちづくりなど様々な活動に理解があるコミセンもあって、バラエティーに富んでいる。コミセンのあり方から考えなければいけないのではないかな。

【A委員】 先日、プレイスの中高生の様子を見学した。指定管理の若い方がインストラクションしており、中高生の相談役になっていた。中高生世代との意見交換会では、プレイスのような、一緒に勉強できる場所がもっと欲しいという声が出ていた。

【副委員長】 第六期長期計画をつくるときに、吉祥寺の図書館にもプレイスのような機能をつけてはどうかと提案したが、図書館を建て替える計画はないということだった。図書館でなくても、次なる公共施設整備のときには中高生向けの居場所を考えるべきだ。今そのチャンスが来ている。

ただ、ニーズはどんどん変わり、5年という調整計画のタームでは追いかけていけない。抽象的な書き方をしたうえで、最後は個別計画の短いタームで見直し、計画行政の考え方に手を加えていくことで、対応できるのではないかな。

【市民C】 「吉祥寺パークエリアのまちづくり」について。「テーマ別論点集」の22ページに挙げられた4点の課題には賛成だが、これらは問題が重なり合っている。私は自転車がよく移動するので、吉祥寺駅の交通環境をもう少しよくしていただきたい。

また、「これまでの取組み状況」に高さ制限をかけているという記載がある。市長は、吉祥寺エリアの高層化を検討しているのか。私は武蔵野市の景観の豊かさに魅力を感じて転居してきた。高さ制限については慎重にご議論いただきたい。

【A委員】 駅周辺の高さ制限は具体的には50メートルで、17階ぐらいの建物が建てられるが、現状はその高さを使い切っていない。駅前を見てもせいぜい8階ぐらいだ。50メートル制限をなくしてから物を考えようという前提には立っていないので、慎重な態度はとられている。百何メートルという複合再開発のような大規模都市開発構想も出ていない。吉祥寺の都市景観を守りながら、緑を生かし、歩行者優先の空間を有効に使って、井の頭公園に向かうグランドレベルラインの豊かさを生かすほうが、吉祥寺のまちらしい空間になる。上へ上へという指向性を持った都市の再開発をという意見を持つ方は武蔵野市にはそう多くないのではないかな。

複合的な課題が出ているというのはおっしゃるとおりだ。スピード感が足りないと言われているが、都市開発は連鎖的に変わっていく。まず南口の交通広場から変えて、次にパークロード、それから井ノ頭通りという順で、市民の意見を酌み取り、長期的なプランに反映させるという仕組みを今回の第二次調整計画でつくる。公会堂の改修によって空間の変化を実感すると、パークエリアがどういう形になるのがいいのかというコンセンサスが得やすくなる。段階を皆さんでかみしめながら、次の都市計画を考えていくことを私は前提にしている。

【委員長】 商業地域は高さ制限に余裕があるということはわかったが、武蔵野市の商業地域が住宅地に広がるということは起こり得ないのか。

【C委員】 武蔵野市のまちづくりは駅前から住宅地に向かって高さを徐々に抑えてきた。これまでの武蔵野市の歴史も考え、まちづくりを変えることはない。

【市民C】 中高生用の資料に、「吉祥寺パークエリアのまちづくり」で「住居を含む高層の建物の誘致が必要か」と書かれていたので、懸念が強まってしまった。今、委員の皆様からのご回答いただいて、安心した。

【A委員】 武蔵野市の土地利用の特徴そのものが武蔵野市らしさになっているとご理解いただくといいと思う。

【副委員長】 吉祥寺のまちづくりは、高山プランという 1960 年代の都市計画の骨子でできており、今も高さ制限よりも随分低く抑え込んでいる。このコンセプトは、国土交通省のコンパクト・プラス・ネットワークを 40 年も 50 年も先取りしている。

今も使っていない高さ制限 50 メートルの建物が建ったら、まちの圧迫感は上がる。今は余裕があるが、これを民間の事業者が完全利用するようになったら、今ある吉祥寺のまちのよさはなくなる。

これから中型、小型のマンションの開発があると、近隣住民の生活は非常に危なくなる。理想的なまち、緑豊かなブランディングを、どの法律、どの手法、どのグランドデザインに位置づけるか。まちは非常に複雑で、1つの法律ができたからといって劇的に変わるものではないが、皆さんが望むまちとはというところから委員会で議論を進める。

【市民D】 私は子育て世代の当事者だ。三鷹駅北口のエレベーターの利用マナーについて、自転車で乗り入れたり、ベビーカーは2台入れるのに1台で扉を閉めてしまったり、譲り合いの精神が欠けている。三鷹駅北口を早く改修して、南口のような大きなエレベーター

ターにしてほしい。今回は盛り込めなくても、長期的にはご検討いただきたい。私は南口のようにペDESTリアンデッキにしたほうがいいと思うが、景観が損なわれるとおっしゃる方もいると聞く。長期計画で検討する際には、マナー的なものも視野に入れていただきたい。

また、「子育て世代への外出支援」の2「これまでの取組み状況と課題」にあるとおり、東京都から15万円のカタログギフトをいただけるが、このうちタクシー券で使えるのは約2万円～2万5,000円だ。これは東京都への働きかけが必要になる。

1「第六期長期計画・調整計画の記載内容」には、「子どもがいる世帯が働きやすいまちづくり」と書いてあるが、様々な理由から、お母さんが働かない家庭、お父さんが働かない家庭もある。親が働くことを前提にした記載についてご検討いただきたい。

【C委員】 三鷹のエレベーターは、JRの敷地内にあるため、施設の更新についてはJRと協議している。自転車を使った南北方面への通行は、駅の東・西側にある通路を使うようにという対応をしているが、誘導がかなっていない。再度PR、啓発に努めたい。

【副委員長】 エレベーターはJRの施設だ。それに対して市は何ができるのか。請願駅であればわかるが、三鷹駅北口に関しては市がJRの設備に寄付したことになるのか。

【C委員】 三鷹駅北口のエレベーターは、市が設置して、維持管理している。JRは、自治体がやるのであればというスタンスだ。

【副委員長】 わかりました。それは市の貸借対照表に載っているということですね。

【B委員】 働きやすいまちづくりの表現については、父親が働く、母親が働く、その働き方、選択は家庭で様々で、おっしゃるとおりだ。文言について検討する。

【市民E】 コミセンの窓口業務を担当する高齢者は生き生きと働いていて、コミセンがよい居場所になっている。ただ、それを就労に結びつけるとなると、高齢者だけではなかなか進んでいかない。間に入る人のフォローも必要だ。子育て世代、高齢者世代をマッチングするシステムがあればいいと日ごろ感じている。最近はテレビなどで、移住する方たちのマッチングや、若い人と地元の高齢者のマッチングの例を耳にする。それぞれが希望を出すばかりでは、取りとめもないことになってしまう。総合的に考えてそれぞれをマッチングするシステムはないか。

【委員長】 今の世代の人たちが高齢者になったら、スマホもネットも使いこなしている。地域の就労のマッチング方法を市の職員も考えるのではないか。

【D委員】 コミセンで働いておられる、もしくは活動に参加することで自己実現を図っておられる方々にとって、その賃金が妥当か、あるいはマッチングの重要性についてご意見があることは承知しているが、労働法制の中で、労働、就労は国が管理することになっており、シルバー人材センターや障害者の福祉的就労はまた別枠だ。高齢者の就労支援について市がどこまでできるか、いただいたご意見をもとに考えをまとめる。

【市民F】 今、コミセンで数名で Zoom を聞いている。

コミセンで、生き生きと頑張って仕事してもらうためにも、この人はこれだけの能力があるからコミセンに行ってはどうかと、例えば国が、民間とは別の機関を通して認めた人を出向に出す形ができると、安定したものがつくれるのではないか。コミセンは地域の中をよくしていこうという場所でもあるので、そういう意識を持った、いろんな年代の人に来てもらいたい。

「子どもがいる世帯が働きやすいまちづくり」は、会社勤めに限らない。地域の中でその人が輝ける場所にいるということを「仕事している」と表現するといいのではないか。

【A委員】 中高生との意見交換会で、「私はお年寄りとお話ししてもいい」という子がいた。興味を持っている子は結構いるが、そういう場面がないようだ。冒頭に問題提起があった施設の複合化で、多世代の人が集まるといいのではないか。

【D委員】 高齢者層がそれまでいた組織で培った知識、経験やスキルを地域に戻ったときにどう生かしていくのかという点において、コミセンという空間や機能を使って、地域のニーズとマッチングする仕組みづくりは、市の活動として考え得る。これから大量に出る退職者を積極的に活用していくべきだ。ただし、就労という形は法の体系などで難しくなるので、「就労を含めた高齢者の社会参加」としている。武蔵野市は高齢者の社会参加を積極的に取り上げてきた。そのためにコミセンという場があるので、今日的に、もう一回議論することが重要だ。

【委員長】 コミセンで大勢で聞いてくださっているというのはありがたい。今後もそうなってほしい。

世代、立場を超えて、みんなが使いやすい機能をコミセンに持たせることを進めていくべきだと感じた。老後に働く場を見出したいと思えるところがたくさんあるといい。

【市民G】 子育て世代の外出支援について。市長公約には子育て世代の前提となる年齢がそもそも記載されていなかったが、市長と策定委員会でのやりとりから、産前産後や 1

歳ぐらいまでの子どもを養育している世代を考えているということがわかった。ただ、移動支援の必要性は、子どもが 18 歳までの子育て世代の誰にでもある。子どものけがや病気で通院、障害があるお子さんの通園・通学、子どもは健康だが保護者の通院に子どもが同行せざるを得ない場合も、外出支援が必要だ。子どもの年齢で区切らず、必要に応じて支援を受けられる仕組みのほうが、多くの子育て世代が助かるのではないかな。

【B 委員】 市長は、外出がしづらい産前産後と、ゼロ歳児の夜間の急な発熱時にという思いをお持ちだ。ただ、幾つまでのお子さん、子育て家庭を対象にしていくのかというのはとても難しい。個人的には 18 歳までと言いたいところで、外出支援があれば助かる方はたくさんおられると思うが、財政的なことも心配だ。どこで線を引くか、私の中でもまだ考えが至っていないので、これから委員会で検討したい。

【委員長】 市長は、公約で子育て支援にレモンキャブのようなものを使おうとお考えだったようだが、レモンキャブは福祉有償運送で、子育て世代の運送には法律上適用できない。今ご意見の中で挙げられた例は、福祉有償運送の適用範囲にはないのかな。

【総合政策部長】 福祉有償運送は法律的にかなり厳格な制度だ。高齢者はもちろん、法で線引かれた障害者もしくは障害児であれば当てはまるが、突然のけがのような場合は当てはまらない。今回の場合、福祉有償運送での対応は難しい。

【市民 G】 移動支援に関しては、皆さんに横並びで渡すのではなく、例えば申請型でも構わないので条件付の制度も行く行くは考えていただきたい。

【委員長】 タクシーの民業を圧迫するので当面は無理にしても、将来、シェアライドや、安全運転できる年配の方が自家用車を使って地域で積極的に協力できるようになるといい。

【市民 H】 ムーバスについて。先日、「ムーバスを考える座談会」に参加した。ベビーカーでムーバスを利用する保護者から、先にベビーカーで乗車している方がいると、2 台目以降は畳んでくださいと言われる、または混み合っていて乗れないため次のバスまでまた 20 分待つという意見が出ていた。

パークエリアの夜の治安について、例えば吉祥寺駅南口駅周辺の路上喫煙を禁止する取り組みはできないかな。

【委員長】 路上喫煙は全面禁止ではないのかな。

【市民 H】 禁止だが、あくまでも規則で、罰則付の条例ではない。隣の西荻窪駅前には罰金付の条例で禁止されている。

【C委員】 ムーバスに関しては、車両のキャパシティ的にベビーカー2台は難しい。ベビーカーを畳んだ状態にできなくて次のバスを待つてしまうことへの問い合わせは確かにある。ただ、細街路を走るため、いたし方ない部分があり、ソフト面でご案内をしながらご理解いただくしかない。最適解がなかなかないのが現状だ。

パークエリアについては禁煙エリアを決めて、路面標示もしている。委託で見回り点検をしているが、罰則を設けた取り締まりはしていない。取り締まりをするとなると費用もかかり、公平性等の問題から、来街者も含めて市内で規制をすることがよいのかという議論もあるため、今の運用となっている。

【委員長】 夜の治安というのは、たばこ以外には何があるのか。

【市民H】 キャバクラ店の客引きをしている人たちが朝まで路上に立っており、彼らが飲み終わった空き缶、たばこの吸い殻等のごみがとんでもない量で放置されている。それを毎朝、飲食店の方が掃除をしている。僕も定期的に駅前の路上清掃に参加しているが、いたたまれない気持ちになる。

路上喫煙について、取り締まらなくても、条例があるというだけで抑止効果がある。罰金制度があれば、市民が注意するときにも使える。隣の西荻窪ができていることなので、吉祥寺駅でもできたらいい。

【C委員】 罰則を設けることを検討しなかったわけではない。罰則を設けた事例について情報収集し、罰則を設けた自治体にヒアリングして、今の運用に落ちついた。

【委員長】 これは第二次調整計画に書き込むことではないと思うが、要望としては真っ当で非常に大事なことだ。

【市民B】 吉祥寺イーストエリアの駐輪場配置のあり方について。近くに駐輪場を整備するというのはどの程度のことかわからないが、今の距離感で十分だと思う。ただ、外側に駐輪場を設けた場合、そこから駅までどう動き、どこに立ち寄っているのかといった動線を調べて、魅力のある歩道や通路をつくることで、遠くに駐輪場をつくるなどとんでもないという人たちの意見もまた変わってくると思う。これはまちづくりの全般について言えることだ。一方で、ハモニカ横丁のような界限性のあるまちへの規制が厳しくなることも考えなければいけない。うまく調整し、あわせて吉祥寺のまちの一層の魅力づくりを進めてほしい。

【A委員】 以前、放置自転車が多かった状況は大分改善された。公共の駐輪場をつくっ

て、きめ細かな運用もしていると思う。

市長は駅前に駐輪場が欲しいというご意見だが、基本的には高付加価値の駅前を自転車で埋めるのはどうなのか。吉祥寺は、自転車に来て、まちの中を歩くことで、まちの活性化に寄与するという形の自転車置き場のほうがいい。空地の暫定利用も踏まえて放置自転車がないように、かつ利便性が高いように設置する。大きな自転車駐輪場の設置計画があるので、それに則って今後も続けられればいいのではないかと。

コミセンの建て替えで魅力ある界隈性ということでは、中高生の居場所づくりがある。イーストエリアは、芸能・演劇・音楽の空間という特色づけをすることで、風俗産業が減っていけば魅力が増すポテンシャルを持っている。図書館やコミセンが複合化施設になり、文化的な要素が大きくなるような施設誘導を積極的に進めることが重要だ。

【市民A】 パークエリアは、井の頭公園に行く人が多い。井の頭公園との結びつきをもっと強調すべきではないか。

今、キラリナの壁面緑化、マルイの北側に大きな植栽、L.L.Bean のモミの木など、商業施設が緑を取り込んでいる。公会堂の道路に面した外構部もうまく緑化して、井の頭公園の緑が駅のほうまでにじみ出たまちづくりをしていく必要がある。

【委員長】 大賛成だ。

【A委員】 私も全く賛成だ。パークエリアは井の頭公園と駅につながる街路2本の雰囲気づくりが大事だ。界隈性は、市が誘導・規制するよりは、お店が自発的にやることが、ムーブメントになる。

都市再開発で建て替えが起きたときは、公会堂の新しい改修計画のイメージが波及するといいとは思っている。今のプランはそういうことがかなり期待できる。

【市民A】 いずれできるであろう駅前広場にも、例えば小さな滝など、水を入れていただけると、よりいい空間になる。

【委員長】 私は六長調では緑・環境の担当だった。公共施設の緑化は、ともすると制約を受ける。A委員及び市の方々は、コストカットを理由に緑化が制約を受けることのないよう、にらみをきかせてほしい。

【副委員長】 篠原さんに質問だが、本町コミセンの移転によるハモニカ横丁の活力減退について具体的にブレークダウンしてほしい。

今、武蔵野市は一種住専における地上緑化 50%以上という規制を取っ払おうとしているのか、設けようとしているのか、副市長に伺いたい。

【市民B】 イーストエリアの規制や本町コミセンの移転が、ハモニカ横丁に直接影響するとは思っていない。それぞれ魅力ある形で存続する。本町コミセンの移転が、魅力ある界限にするための機会になるとよい。商業者たちのすみ分けをうまく誘導し、楽しいまちにしてほしい。本町コミセンがオープンしたら、吉祥寺をどうするかという会合を開いていただいてもいいかもしれない。

【C委員】 緑化率の緩和は考えていない。逆に、武蔵野市のまちづくりは緑が重要なファクターなので、沿道の緑や連続性を増やして、まち全体に広げ、緑を増やすための施策を打ちたい。

【副委員長】 屋上緑化も緑化にカウントするのか。地上部緑化をしなくてはいけないという規制強化に向っているのか。屋上緑化よりも壁面緑化のほうが、地上部からの視認性とか緑の豊かさに効く。屋上緑化はカウント外にすべきだ。武蔵野市は緑豊かなまちが都市ブランドの根底にあるので、地上緑化をお願いしたい。

【C委員】 壁面は、歩いている人の目に入るので、緑視率にカウントされる。屋上は見えないので、壁面のほうを進めてもらいたいところだが、屋上も、投影で考えると緑にカウントできる。優劣をつけずに、緑はまずは地べたということで進めたい。

【市民I】 「就労を含めた高齢者の社会参加の支援」について。市長は高齢者にターゲットを絞っていたと思うが、「テーマ別論点集」2ページには、①『健康長寿のまち武蔵野』の推進で「就労機会の拡大を図る」、②「産業の振興」で「多様な人材を生かす雇用・就労支援等に取り組む」とあり、この2つに落とし込むようだ。例えば、社会参加的な文脈で考えられるボランティアワークの現場で、今起こっていることをデータとしてつかんでいるか。高齢化の問題は非常に深刻で、次の世代に渡すことができないという現実がある。そこをどうするのが何も見えない。文言としてしっかりとあらわして議論していただきたい。

子育て世代への外出支援について。市長ご自身の経験から出てきた提言に対し、保護者のニーズについて洗い直して、基本的には出産前後の部分について、市、あるいは民間がどんなサービスを提供しているのか、そのうえでこれからできることは何なのかという話の持っていく方をしないと、市長のせっかくのアイデアがうまく生かされない。

【D委員】 ボランティアワークの現場でも高齢化が進み、担い手がないということについては市も重々認識している。それに見合うデータがあるかどうかは確認する。

就労については、高齢者の社会参加全般で捉えたいと思っている。今日いただいたご意見をもとに議論を深めたい。

【事務局】 音声に不具合があり、発言できなかった参加者から、事務局にメッセージによる発言があったので、読み上げる。

【市民J】 小さい子どもなどがある方々や体に不調がある方、障害のある方など、できるだけ駅の近くの商業施設まで自転車で移動したい。買い物の荷物と子どもの両方を抱えて商業施設からの移動は大変だ。吉祥寺エリアの自転車置き場が商業施設とかなり離れていることは果たして市民に優しいまちと言えるのか。他の武蔵野市の駅前、三鷹、武蔵境なども、住居地域と商業地域を結ぶ手段として自転車は大切なものだと思う。今後この点をどうお考えか。

【委員長】 市長も似たようなことをおっしゃっていた。一方で、歩くのも大事だという意見もあった。私は、遠いところも近いところもあって、料金で差をつけるとか、いろいろな運用をするのがいいと思う。

【C委員】 確かに、市の計画の中では駅の外周部に自転車駐輪場を設けるという書き込みがあるが、外周部がどこなのかという議論もある。また、自転車の動線を考えたときに、幹線道路に近いところは駅の近くに設けるほうが、より安全でウォーカブルなまちにつながる。外周部の駐輪場は街中で買い物をしていただくとか、そういった形を二次調の論点に挙げて検討するとともに、自転車の総合計画の中でも検討を進める。

【委員長】 今日はオンライン形式で、いい意見交換ができた。今後もこういうことが普通になって、多くの人たちがこの会議について議論できるようになったらいいと思っている。

事務局が、追加意見の提出方法と今後のスケジュールについて案内し、意見交換会を閉じた。

以 上